

第7回テーマ

「マンモグラフィと超音波検査。どちらを受けたらいいの？」

タイトルのような質問を、乳がん検診時によく聞かれます。

乳がんの検査は、乳腺外来では視触診、マンモグラフィ、超音波検査を行いますが、職域における乳がん検診ではどちらか一方を選択する方法で行っています。

マンモグラフィでは、乳腺組織は白く（高濃度）、脂肪組織は黒く写ります。乳房構成（乳房内の乳腺の性状）について、乳腺組織の多い順に、①極めて高濃度 ②不均一高濃度 ③乳腺散在 ④脂肪性の4つに分類されています。病変は白く描出されるため、乳腺組織が多い人ほど小さな病変が見付けにくい傾向があります。

前回のマンモグラフィの記録がある方には画面を見ていただき、「あなたの乳腺構成は〇〇です」と伝えます。①、②の方には超音波検査の併用又は、超音波検査に変更するか伺います。超音波検査では病変は黒く（低エコー）描出されるため、小さな病変が発見できます。

④の方で特に乳房が大きい人は乳房全体が把握でき、病変が端にある場合はさらにマンモグラフィが有効と思われます。③の方でも病変がマンモグラフィで見付け難い場合もあり、普段からご自身の乳房の状態を知っておくことも大切です。

毎年超音波検査を受けている40歳以上の方には、市区町村が行う乳がん検診（隔年のマンモグラフィ）を受けていただくよう伝えます。小さい石灰化で見分かる早期乳がんがあり、最近増加傾向にあるとお話します。20歳～30歳代の方には高濃度乳腺の人が多いため超音波検査をお勧め致します。

最近、高齢者（60歳後半～70歳代）の乳がんが増えているように思われます。市区町村の乳がん検診を是非受けていただきたいと思います。

（文責：医師 山本和子）